

映画「海猿3（仮題）」撮影こぼれ話

渡邊芳憲（91503）

■はじめに

読者の方から「昔、この団地で海猿の撮影があつたけど、これを書いてくれ」というご意見をいただきました。

ご意見ありがとうございました。調べてみました。
なお、「これはこうだったよ」「それはああだった」ということを教えていただければ有難いです。

また、写真等もあれば、提供下されば幸いです。（これは、難しいとは思っていますが）

■海猿について

海猿（うみざる）は、もともとは作者佐藤秀峰（原案・取材は小森陽一）によって1999年（平成11年）から2001年まで週刊ヤングサンデー（小学館刊）に连载された漫画でした。

内容は、海難救助を中心とした海上保安官の活躍、とりわけ、潜水士である主人公の仙崎大輔はじめとする潜水士をめぐるドラマとなっています。連載終了後、テレビドラマ化されました。また、2004年から4作品の実写映画化もされました。

テレビドラマでは、NHKが2002年、2003年に単発ドラマとして放送しました。また、フジテレビが、映画「海猿—ウミザル—」の続編として「海猿 UMIZARU EVOLUTION」を11回の連続ドラマ（2005年7月～9月）として放送しています。

映画化された「海猿」は、すべてフジテレビの制作で、主演の伊藤英明（仙崎大輔役）や主要キャストも固定で制作されています。

なお、「海猿」という言葉は、海中で猿のように敏捷に動き活躍する潜水士のイメージに由来する漫画の造語だそうです。

テレビや映画がヒットした影響で「海猿」という言葉が普及し、認識されたことから、世間一般でも、海上保安部、海上保安官を指して「ああ海猿な」とか言つたりしています。

また、海上保安庁でも、広報などで時々使う言葉となつていています。

■第3サンハイツとの関わり

2作目以降の映画タイトルには「海猿」のあとに「UMIZARU」と入っていますが、ここでは、省略して標記します。

映画2作目の「LIMIT OF LOVE 海猿」は第10管区海上保安本部のある鹿児島が舞台でしたが、私たちの団地に協力要請があったのは、3作目「THE LAST MESSAGE 海猿」の方です。

平成21年（2009年）6月、映画制作プロダクシ

ヨン「ROBOT」から、映画『海猿3（仮題）』の撮影場所として、11号棟～14号棟周辺を使わせて欲しいという要請が管理組合にありました。

理事会では、場所を提供することについて、早速11号棟～14号棟の居住者へのアンケートをしました。こ

の際のアンケートの依頼文には、プロダクション側が、私たちの団地を撮影場所にした理由も書いてあり、それによると、錦江湾を隔てて桜島が望めるコンドミニアム（分譲タイプの集合住宅のこと）は当第3住宅しかなかったからとのことでした。ところが、7月にあつた理事会で、現場担当者の古屋さんの説明では、撮影場所が「3号棟・5号棟駐車場及びその周辺」となっていました。理事会では、急遽、3号棟・5号棟の居住者への撮影協力の可否についてのアンケートを行った。これを抜粋して紹介します。

（前略）コミックスを原作とした映画「海猿」は、2004年に約130万人の観客を動員し、海上保安大学校の訓練生たちが海上保安官になるまでの真摯な姿や、訓練生同士の友情が、多くの共感を得ることが出来ました。（中略）2005年5月に公開された映画第2弾「LIMIT OF LOVE 海猿」は、日本全国見守る中、大型フェリー沈没事故から乗客を助け出すというスケールの大きな物語となり、動員500万人という映画界においてまれに見るヒットとなりました。（中略）（海猿3は）日本と韓国が共同開発するオイルリグとそこで働くスタッフを、観測史上最大の台風と二次災害から守り抜くという物語です。（後略）

※オイルリグ・海底から石油などを掘削・生産するため、海上に設置された海洋構造物いろいろありましたが、いよいよ撮影当日です。

当時は、5号棟の前の駐車場の車は、一斉にほかの場所に移動させられました。そして、台風通過後という設定で、駐車場には水が撒かれ、落ち葉も撒かれました。

また、カメラを載せた台車が走るレールも5号棟前から集会所方向に伸びています。さらに寿司幸の2階にもカメラが置かれたそうです。

一般人のカメラ・ビデオの撮影やサインを求める行為は厳しく止められていました。

撮影本番では、仙崎大輔（伊藤英明）の妻仙崎環奈役の加藤あいさんが車で帰ってきて車を降りるシーンが何回か撮影されました。

なお、多分撮影の合間のことだったのではよう、加藤あいさんが9号棟の前のブランコに座つていたとの目撃情報もありました。

■企画書から見る企画意図

最初の説明のために、提出された企画書に【映画「海猿3（仮題）企画意図】という章がありました。

これを抜粋して紹介します。

（前略）コミックスを原作とした映画「海猿」は、2004年に約130万人の観客を動員しました。

（中略）（海猿3は）日本と韓国が共同開発するオイルリグとそこで働くスタッフを、観測史上最大の台風と二次災害から守り抜くという物語です。（後略）

※オイルリグ・海底から石油などを掘削・生産するため、海上に設置された海洋構造物いろいろありましたが、いよいよ撮影当日です。

